

気軽に楽しみ、飽きがこず味わい深い狂言「お豆腐狂言」で人気の茂山千五郎家による狂言会です。ユーモラスに富んだ喜劇とも言われる狂言を前説付きで楽しめるので、狂言会が初めての人でも気負わずに鑑賞できます。

力強い舞『三番三』に始まり、立場の逆転が面白い『昆布売』、珍しい小唄入の『狐塚』と、賑やかな曲目をお送りいたします。文化創造館で楽しむ、狂言の「和らい」にご期待ください。

「お豆腐狂言」とは

能楽師大蔵流狂言方 茂山千五郎家は、江戸初期から約400年にわたり、京都を中心に息づいてきた狂言師の家です。茂山千五郎家の狂言は、「お豆腐狂言」と称されます。その由来は、二世千作が、当時一部の特別な階層の人々だけのものであった狂言を、地藏盆・結婚式・お祝いの会など、色々な所に出向いて演じ、仲間内から「お豆腐のような奴だ」と評されたことによります。それに対して二世千作は「お豆腐で結構。それ自体高価でも上等でもないが、味つけによって高級な味にもなれば、庶民の味にもなる。お豆腐のようにどんな所でも喜んでいただける狂言を演じればよい。より美味しいお豆腐になることに努力すればよい。」と、悪口を逆手に取りました。それ以来、茂山千五郎家では家訓としてこれを語り伝え、いつの世も広く愛される、飽きのこない、そして味わい深い「お豆腐狂言」を広めていきたいと活動を続けています。

あらすじ・解説

◆『三番三(さんばそう)』

『三番三』とは、能にして能にあらずと言われ、天下泰平、五穀豊饒を祈る祝祷の能『翁』の後半部に、狂言方がつとめる舞です。まず勇ましく急調な揉み出しから始まって軽快な喜びの舞「揉ノ段」、ついで黒式尉の面をかけ、千歳から受け取った鈴を振りつつ、荘重にして飄逸味のある「鈴ノ段」を舞い納めます。

関西気鋭の囃子方による迫力の演奏、そして茂山家の当主・千五郎が家の芸として得意とする舞のすばらしさをご堪能ください。

◆『昆布売(こぶうり)』

供も連れず自身で太刀を持った大名が誰ぞに持たせようと待ち構えていると、若狭の小浜の昆布売が通りかかります。これ幸いと太刀で脅して無理やり持たせるのですが、怒った昆布売にその太刀で斬りつけられ、昆布を売る真似をさせられます。その売り声を、平家節、小唄節、踊り節と謡いわけの所が見所です。

風刺性の強い大名狂言ですが、茂山家の長老・あきらのおおらかな芸風がほんわか楽しい舞台を醸し出すでしょう。

◆『狐塚 小唄入(きつねづか こうたいり)』

のどかな田園情緒にあふれた狂言です。昼間は機嫌よく鳴子を振って群鳥を追っていた太郎冠者と次郎冠者。夜になって畔の庵で番をしますが、所は狐が出るという狐塚、しだいに気味悪くなっていきます。そこに「ホーイ」という呼び声。実は主人が酒を振舞いに来たのですが、二人はてっきり狐だと思い込むのです…。

これが『狐塚』のあらすじですが、『小唄入』になると二人が鳴子を引く時に、「引く物尽くし」の長い謡を謡いつつ舞います。次代を担う茂と千之丞の見せ所です。

 **東大阪市文化創造館**
HIGASHIOSAKA Cultural Creation Hall
指定管理者：PFI東大阪文化創造館株式会社

アクセス

近鉄奈良線 八戸ノ里駅 北約200m(徒歩約5分)

※駐車場(有料)には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ

〒577-0034 東大阪市御厨南二丁目3番4号

T E L : 06-4307-5772 (受付時間：9時～20時)

休館日：第2火曜日 ※受付時間が変更になる可能性があります。

